

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 劇団うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

内容
<p>① ワークショップの参加児童は、4年生以上、1クラス単位(30名程度)を基本とします。</p> <p>② 指導は、ワークショップ指導経験者が2名で行います。</p> <p>③ 共演場面の練習に限らず、“演劇的表現”を楽しむためのワークショップや、子どもたち相互のコミュニケーション力向上をはかる活動を実施します。 活動内容は、参加児童の学年や人数などによって調整します。</p> <p>④ 共演内容に関しては上演校の状況に柔軟に対応し、共演内容などの検討や変更を行います。</p> <p>【共演の内容】下校前の場面での共演です。逃げ出したウサギに気づく前の子どもたちの日常を描いた場面です。登場人物と共に大縄とびなどで遊び、その後下校します。実施校ごとに児童のアイデアを活かし台詞をつくり、場面を創作します。共演児童は10名程です。</p>

タイムスケジュール(標準)
<p>0分～15分【導入】活動の目的と概要を伝えます。アイスブレイクのための活動を行います。</p> <p>15分～45分【展開①】表現活動を行うための準備段階として、他者とのコミュニケーションを楽しむ活動を行います。想像を楽しむ活動と、小集団での創作活動(身体表現)を行います。</p> <p>45分～55分【休憩】</p> <p>55分～85分【展開②】共演場面の内容を伝えます。下校の場面の遊びの内容を決め、セリフを児童のアイデアで決めます。即興的に演じながら、共演場面を創作します。</p> <p>85分～100分【まとめ】共演児童を決定します。共演児童は、実際の舞台と同サイズにテーピングした場所を使い、参加共演場面を演じます。他の児童は、見学します。</p>

派遣者数
主指導者 1名      補助者 1名                      計 2名

学校における事前指導
ワークショップの内容、共演場面の内容に関する詳細な案内を郵送します。 手紙を実施学級に掲示し、児童生徒にワークショップの内容・共演場面の内容の周知を図ってください。

# 令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## 本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 劇団うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

<b>演目</b>
演目： 学校ウサギをつかまえろ 原作： 岡田淳 脚本/演出： 田辺剛 舞台美術： 方 勝 音楽/音響： ノノヤママナコ <p style="text-align: right;">公演時間（65分 休憩なし）</p>

<b>派遣者数</b>
出演者： 6名 舞台裏方スタッフ： 1名 計7名

<b>タイムスケジュール（標準）</b>					
学校到着	仕込み/リハーサル	本公演	内休憩	撤去/積込	退出
9:00	9:00～11:30 /11:30～12:15  リハーサル所要時間 40分～45分	13:30～14:30	無	15:00～16:00	16:10

<b>実施校への協力依頼人員</b>
<p>・公演実施前 上演演目のポスターを校内などに掲示し、児童生徒等への周知にご協力ください。 また本事業のパンフレットの配布をお願いします。</p> <p>・公演当日 客席にパイプ椅子が必要な場合は、椅子の設置準備にご協力ください。 上演後の椅子の撤去作業をお願いいたします。 保護者の方などがご来場の場合は、保護者受付・携帯電話のマナーに関してのインフォメーションをお願いします。</p>

## 演目解説

### 【あらすじ】

下校の時間が過ぎたころ、4年3組の子どもたちが工事現場にウサギが駆け込むところを目撃！学校の飼育小屋の最後の一匹に違いない。子どもたちのウサギ捜索が始まった。ウサギはプレハブの床下にいるところを発見されるが、なかなか捕まらない。長い棒で追いかけたり、エサをやったり、あの手この手を試すうちに日も暮れてきた。どうやってウサギをつかまえるか？話しているうちに教室ではわからなかった友達の素顔が見えてくる。ウサギを追って、子どもたちの気持ちが一つになっていく。

### 【みどころ】

性格も家庭環境も違う子どもたちが一匹のウサギを捕まえることに夢中になる姿、一緒に成し遂げた時の高揚感と、「みんなありがとう！」という気持ちに深く感動する演劇です。回転する舞台を用いて、ウサギを追う緊張感やスピード感を体感できる演出も魅力です。随所に入る歌とダンスも、子どもたちが持つ躍動感を良く表現しており、観客を惹きつけ続けます。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

【共演の内容】下校前の場面での共演です。逃げ出したウサギに気づく前の子どもたちの日常を描いた場面です。登場人物と共に大縄とびなどで遊び、その後下校します。実施校ごとに児童のアイデアを活かし台詞をつくり、場面を創作します。共演児童は10名程です。

## 児童生徒とのふれあい

上演後、舞台の見学や舞台裏の見学を計画しています。回り舞台を間近から見学してもらいます。希望がある場合、音響のオペレーションを体験することも可能です。舞台装置に触れたり、効果音などを出す体験は、舞台芸術への興味関心を強く喚起し未来の芸術家育成・観客育成につながるものと考えます。

また、児童生徒が退場する際には、俳優が送り出しをします。身近に俳優に触れ、声を掛け合う事でコミュニケーションが生まれ、舞台芸術がより身近な物として感じられる機会をつくります。

(新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、児童生徒との触れ合い内容を変更する場合があります)